

地域づくり表彰

那須まちづくり株式会社
(栃木県那須郡那須町)

廃校を活用した生涯活躍・安心のまち
～少子高齢化社会での拠点づくり～

那須まちづくり(株)
役員一同



1. 那須町の概要

那須町は、栃木県の北部に位置し、東京都まで約170 km、県都宇都宮市まで約60 kmの距離にあり、町の北西部には、今なお噴煙をはき続ける那須連山の主峰、標高1,915mの茶臼岳がそびえ、その南斜面には、那須温泉郷、レジャー施設や別荘が点在する高原地域が広がっている。



茶臼岳

また、町中央部の平坦地には、JR黒田原駅周辺を中心とする市街地や、首都圏農業の一翼を担う広大な農業地帯が形成されている。



山麓地帯に広がる牧場

東部の八溝山系一帯は、県立自然公園区域に指定されるとともに、良質な八溝材の生産地となっている。



道の駅 東山道伊王野

2. 活動開始の背景・経緯

地方都市における少子高齢化の影響は甚大で、生活インフラの維持も難しい地域も多くなっている。一方、持続可能な様式で人々が暮らしていくためには地方の資源を活用してそれぞれの地域で再生を図ることが、これまで以上に大変重要になっている。これまで、私たちは(一社)コミュニティネットワーク協会の活動を通じて、那須町で高齢者住宅を企画し、その住居を核に地域コミュニティの再生に10年以上取り組んできた。当初より「100年コミュニティ構想」として、継続可能な元気のでるまちづくりを目指してきたが、その取組をさらに発展させるため、那須町で廃校になった旧朝日小学校を生涯活躍の町・新しい学びと新しいコミュニティの拠点「那須まちづくり広場」として再生することとした。



多数参加いただいた開設セミナー

3. 活動の広がり

廃校活用として、自主事業もしくはテナント誘致により、地域包括ケア、「食」の向上、6次産業の推進、統合医療の社会モデルの構築などの機能を整備してきた。具体的にはマルシェでの地元野菜や加工品販売、コミュニティカフェの運営、給食室を活用したミルクバーの製造などである。また、教室を活用して学びと交流、アートの実践の機会を多数作っている。



自然食品がいっぱいの「あや市場」

少子高齢社会の新しいコミュニティとして普及可能なコンパクトシティを形成するために、看取り可能な介護重視型のサービス付き高齢者向け住宅、セーフティーネット住宅、簡易宿泊所、放課後デイサービス、児童発達支援センター、就労継続支援事業所B型、訪問介護、通所介護といった機能を整備中である。この整備により那須まちづくり広場は地域住民が将来にわたって安心して暮らせる拠点となる。

地域とのつながりは多様であり、特定非営利活動法人ワーカーズコープ、ワンランド株式会社、訪問看護ステーションりんりん、建築工房槐、合同会社那須農業塾、株式会社NTTデータだいち、株式会社リハビリデザイン研究所、よろず相談所、統合医療をすすめる会、なす子育ての会などと連携している。「那須まちづくりの会」というボランティアグループも組織しており、50名以上が登録し、「防災部会」、「園芸部会」などの部会をつくって活動している。



満員の講演会

1 かに 1~2 回開催している那須まちづくり広場の講演は、上野千鶴子さん、山崎亮さんなど全国的に著名な方の講演と地元でがんばっている方の講演を2本柱としており、毎回充実している。また、アースデー那須など地域の重要なイベントも那須まちづくり広場を会場にしており、活動はつながり、広がっている。

4. 継続性

創業3年目であるが、役員は60~70代の3人であり、創業当初から研修や懇親会など近隣の若い人材との交流を積極的に行って事業を後々託せる人材の発掘に努めている。町の総合計画を学習し提案するといったまちづくり関係の学習会を多数開催しており、那須まちづくり広場に関わる人は年々増えており、その活動の幅も広がっている。



多世代での話し合い

放課後等デイサービスやセーフティネット住宅など準備中の事業および現在あるマルシェやカフェなどの事業の多くは、誰もが経営者であり誰もが労働者である「ワーカーズコープ（協同労働）」という働き方で運営する予定であり、この「雇われず、主体者として協同・連帯して働く」スタイルに共感した若い世代が集まってきている。

5. 地域資源の活用

特定非営利活動法人ワーカーズコープ、ワンランド株式会社などの連携団体やボランティアの多くは那須町とその近隣（那須塩原市、白河市など）の方々である。また、マルシェでは50以上の商店や農家が地元産品を販売しており、売り場でのコミュニケーションが元で新しい製品となった例もある。また、地元小中学校とも多方面で連携している。地元人材の雇用はまだ少ないが、現在の整備が完了すれば

40~50名程度の雇用が生まれると見込んでいる。その他、音楽工房ではパイプオルガンの演奏会、アート教室では地元アーティストの講座開催など、文化面でも地域資源の活用が進んでいる。地域的にも、那須だけにとどまらず、行政エリアを越えて地元住民の生活圏である福島県の西郷村や白河市からの参加も多い。



アートがあるまちづくり

6. 創意工夫

少子高齢化社会と過疎地再生のまちづくりに関する多様な事業をコンパクトに廃校にまとめている。地元野菜、自然食品などを扱う市場、地元の牛乳を加工したミルクプラント、配食サービス、介護保険外事業である共生の居場所、ワンストップ型のよろず相談所、などひとつひとつの事業にもそれぞれ特徴があるが、それらがコンパクトにまとまり、地域の他の事業体とも連携して相乗効果を出しながらまちづくりに取り組むことは他に例のない事業である。「ごちゃまぜ」が相乗効果を生むのである。助け合いのある暮らしを促進することで、これまで、就業対象外になりがちだった障がい者、高齢者、若者、シングルマザーなどが経済的自立を果たすことが見込まれる。今後の少子高齢化に対応した、地域住民が将来にわたって安心して暮らせる新しいまちづくりの先駆例になっていくと確信している。



みんなでペンキ塗り

7. 成果

多数の事業や活動により、地域のまちづくり拠点としてすでに地域に認

知されている。地域の交流の場となるだけでなく、新しい活動やグループを生み出していく場として成長し、地方創生に寄与している。よろず相談所では行政に相談しにくい相談の受け皿になっている。また、毎月のセミナー・イベントは20を越え、地域おこしに大いに役立っている。特に、総合学習の時間など小中学校との連携が進んでいることは大きな成果と言える。



小学生が事業提案

活動は幸い多方面から高い評価をいただき、地方新聞と共同通信が実施している地域再生大賞の「関東・甲信越」ブロック賞、めぶきフィナンシャルグループが主催するめぶきビジネスアワードの奨励賞といった複数の受賞をいただいている。統合医療社会モデルの先駆例としても注目されており、日本統合医療学会とキューバ統合医療関係団体との合同シンポジウムでも那須の事例が紹介されている。

8. 課題と展望

事業が多岐にわたっており、現時点の課題は人出不足である。また、現在の計画を完遂するためには資金も不足している。しかしながら、地域への浸透は確実に進んでおり、課題は時間と共に解決すると期待している。

今後、雇用も拡大し経済効果も大きくなろう。この活動で、地方を持続可能な様式で創生をしていく拠点のあり方を示していきたい。



一周年記念祭